

図9.6 亜鉛測定地点（猪名川）

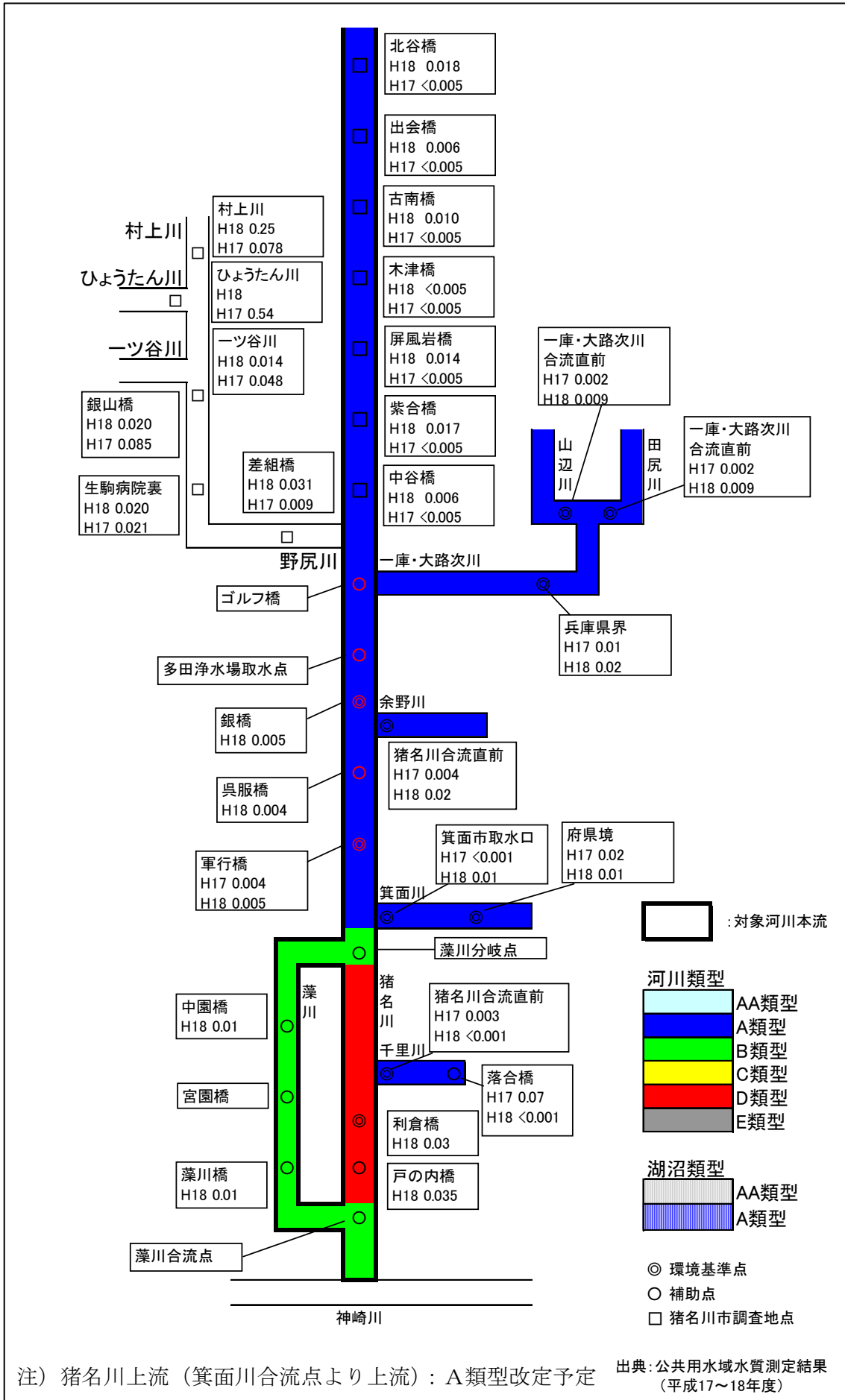
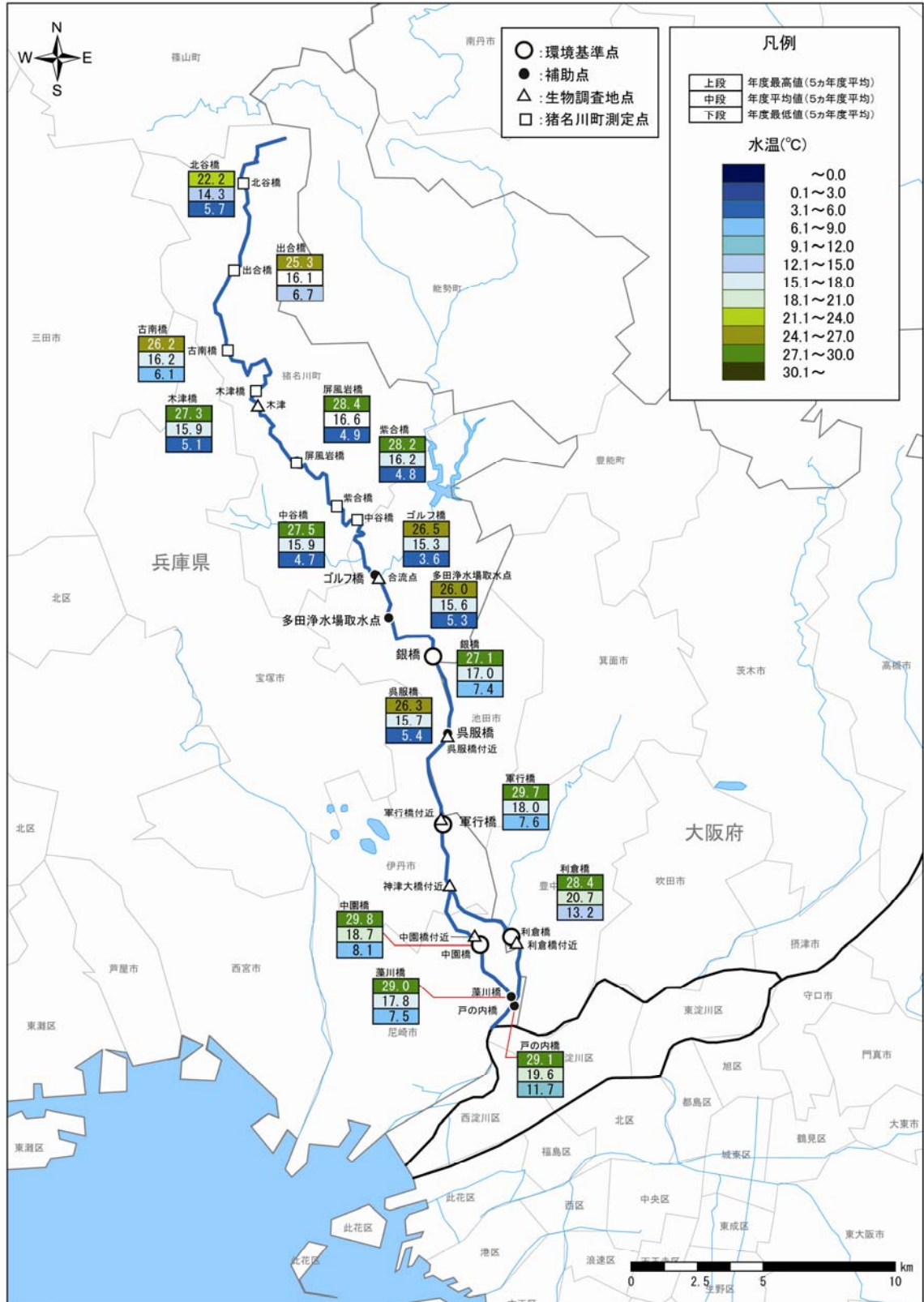


図9.7 亜鉛分布状況 (猪名川)



出典：公共用水域水質測定結果（平成14～18年度）
猪名川町水質測定結果（平成14～18年度）

図9.8 水温の分布図（猪名川）

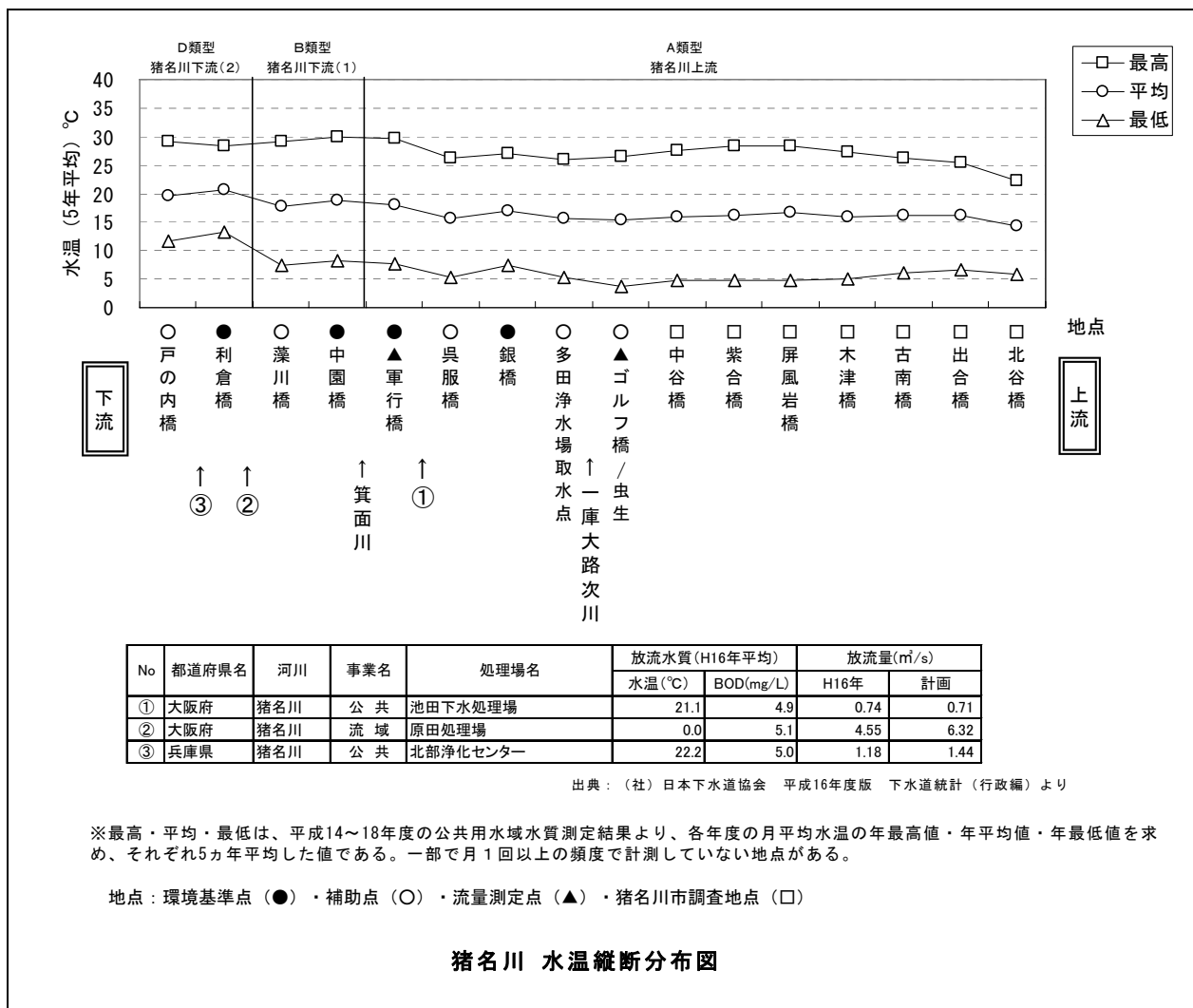
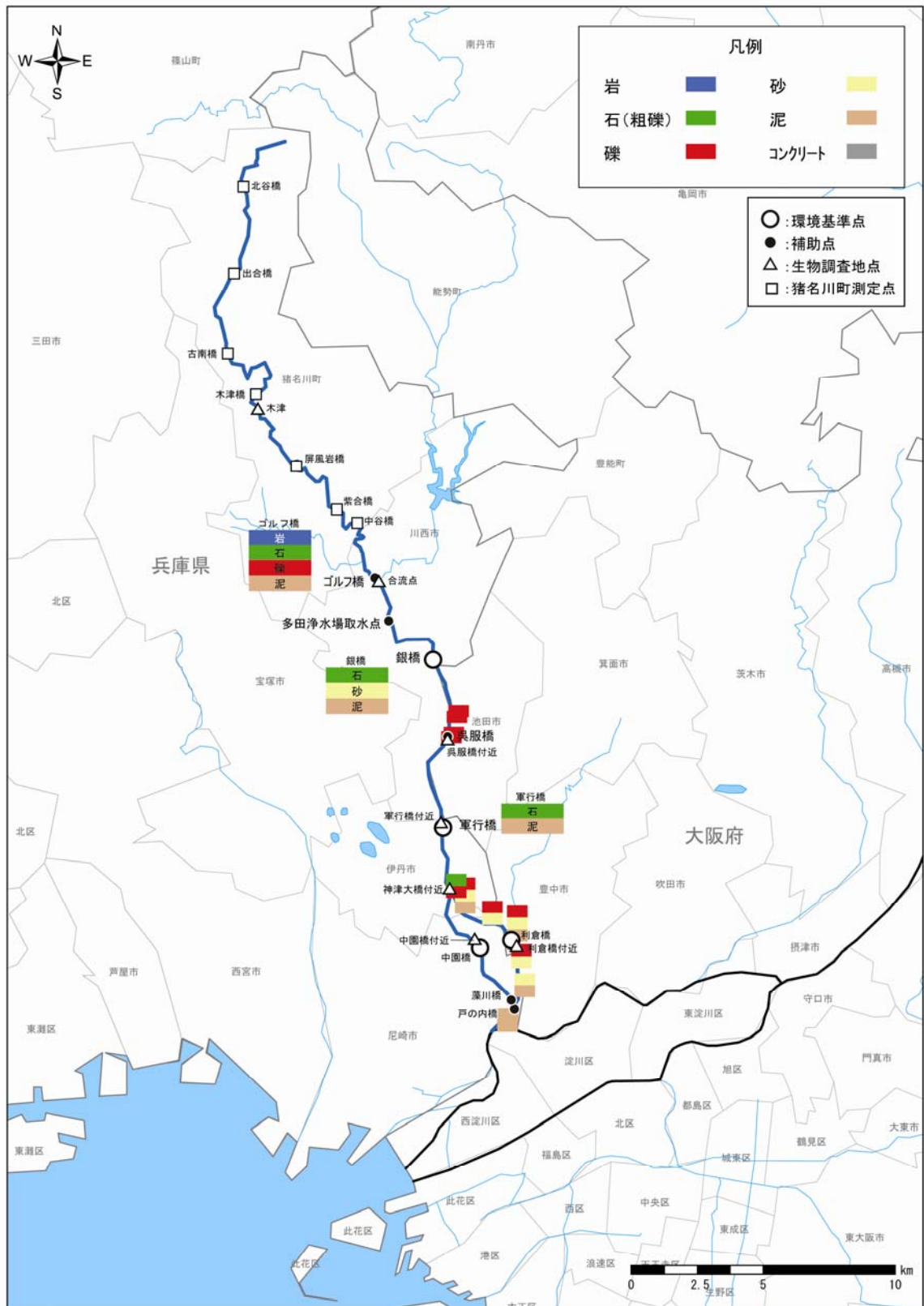


図9.9 水温の縦断分布図(猪名川)

出典：公共用水域水質測定結果等



出典：近畿地方整備局河川環境課資料より
 淀川(本川/宇治川)H15、淀川(瀬田川)H7、木津川(上流)H8、(下流)H15、
 猪名川(上流)S09、(下流)H8、神崎川(年度不明/大阪府提供)

図9.10 河床材料図(猪名川)

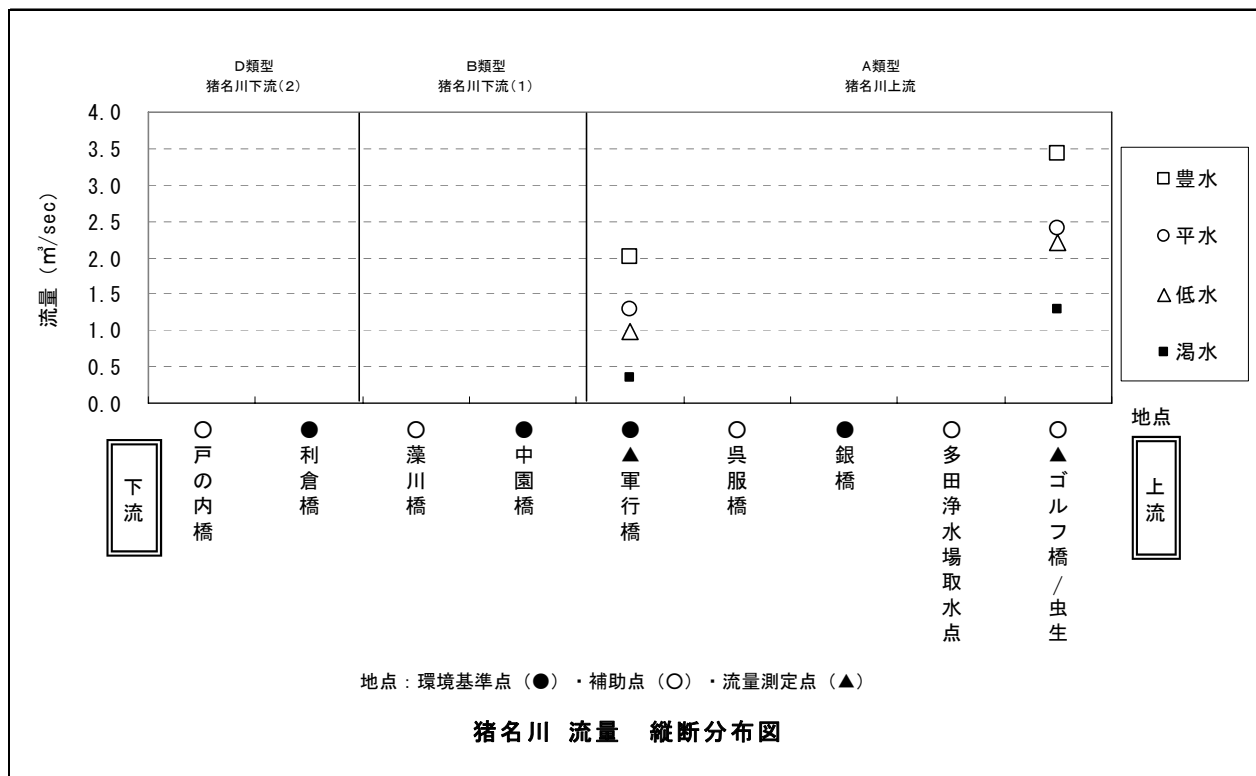


図9.11 流量の縦断分布図 (猪名川)

出典：流量年表

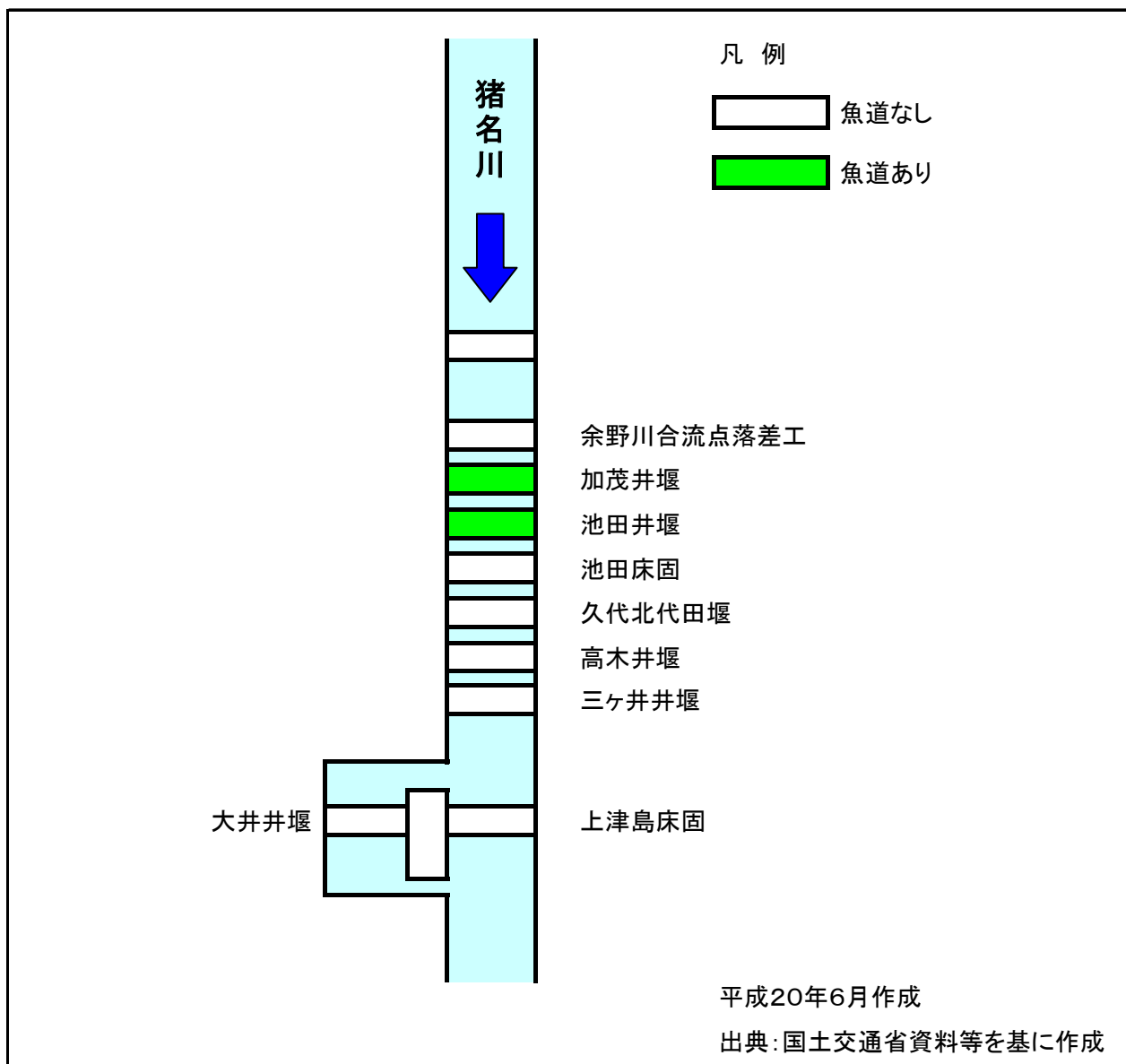


図9.12 主な河川横断工作物（猪名川）

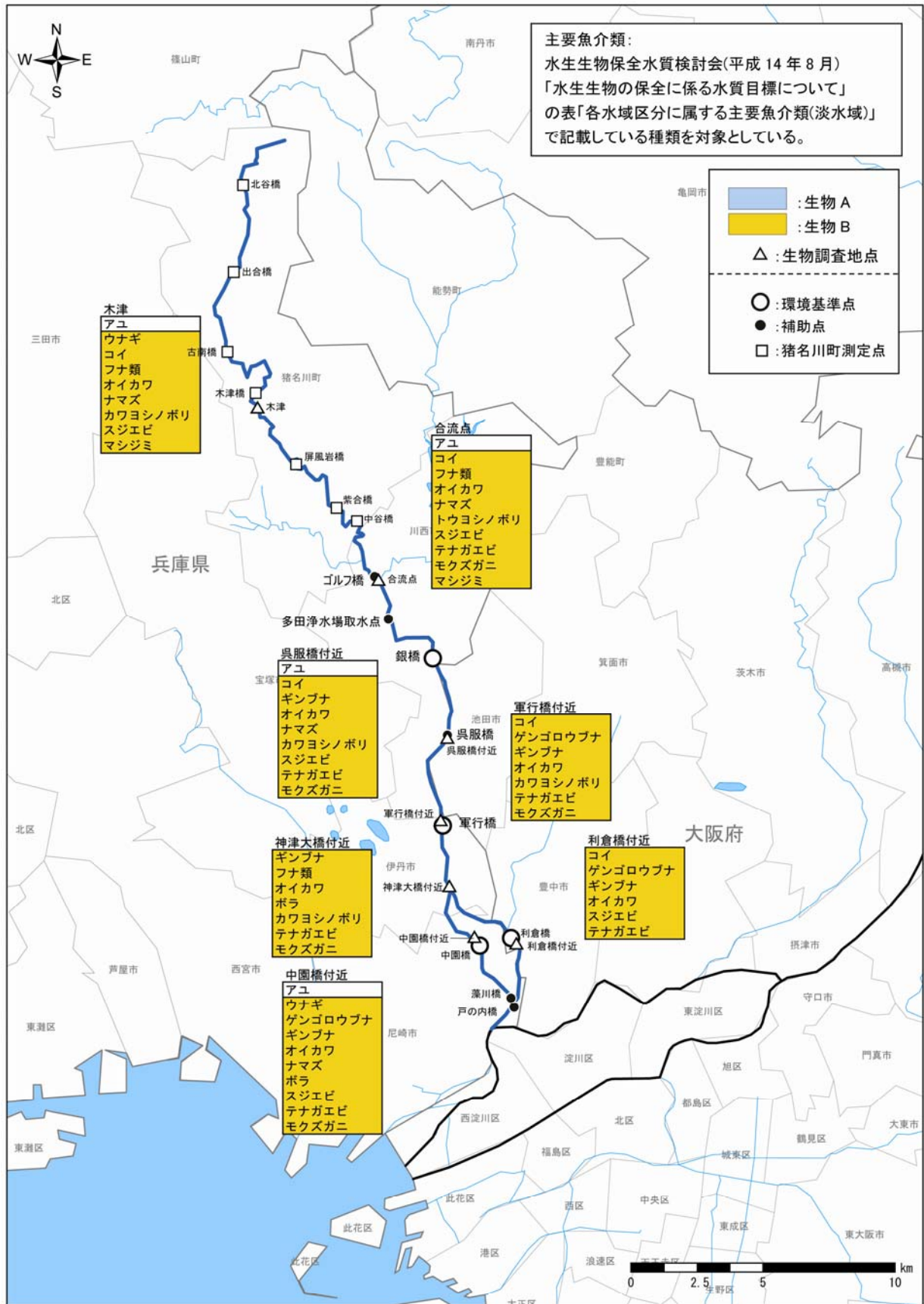


図9.13 主要魚介類の確認状況 (猪名川)

表9.3 主要魚介類の確認状況（既存調査結果）（猪名川）

項目・分類・科・種名				調査地点						
				1	2	3	4	5	6	7
				利倉橋付近	神津大橋付近	中園橋付近	軍行橋付近	呉服橋付近	合流点	木津
出典・調査時期				国土交通省 河川水辺国勢調査	国土交通省 河川水辺国勢調査	国土交通省 河川水辺国勢調査	国土交通省 河川水辺国勢調査	国土交通省 河川水辺国勢調査	兵庫県 河川水辺国勢調査	兵庫県 河川水辺国勢調査
				平成17年度 (7月・9月)	平成17年度 (7月・9月)	平成17年度 (7月・9月)	平成17年度 (7月・9月)	平成17年度 (7月・9月)	平成13年度 (6月・10(11)月)	平成13年度 (6月・10(11)月)
生物A	魚類	アユ科	アユ			○			○	○
生物B	魚類	ウナギ科	ウナギ			○				○
		コイ科	コイ	○			○	○	○	○
		コイ科	ゲンゴロウブナ	○		○	○		○	○
		コイ科	ギンブナ	○	○	○	○	○		
		コイ科	フナ属 (Carassius) の一種		○				○	○
		コイ科	オイカワ	○	○	○	○	○	○	○
		ナマズ科	ナマズ			○		○	○	○
		ボラ科	ボラ		○	○				
		ハゼ科	トウヨシノボリ						○	
		ハゼ科	カワヨシノボリ		○		○	○		○
	甲殻類	テナガエビ科	スジエビ	○		○		○	○	○
		テナガエビ科	テナガエビ	○	○	○	○	○	○	○
		イワガニ科	モクスガニ		○	○	○	○	○	○
	軟体類	シジミ科	マシジミ						○	○
その他	魚類	コイ科	タイリクバラタナゴ		○	○				
		コイ科	カワムツ					○		
		コイ科	カワムツB型						○	○
		コイ科	モツゴ	○	○	○	○	○		○
		コイ科	ムギツク						○	○
		コイ科	タモロコ							○
		コイ科	カマツカ						○	○
		コイ科	ズナガニゴイ						○	○
		コイ科	コウライニゴイ						○	○
		コイ科	ニゴイ	○	○	○	○	○	○	○
		コイ科	イトモロコ						○	○
		コイ科	スゴモロコ					○		
		ドジョウ科	シマドジョウ							○
		ドジョウ科	スジシマドジョウ中型種						○	
		ギギ科	ギギ						○	○
		カダヤシ科	カダヤシ	○						
		スズキ科	スズキ			○				
		サンフィッシュ科	ブルーギル	○					○	
		サンフィッシュ科	オオクチバス (ブラックバス)	○	○	○	○	○	○	
		ハゼ科	ドンコ							○
		ハゼ科	チチブモドキ			○				
		ハゼ科	マハゼ	○		○				
		タイワンドジョウ科	タイワンドジョウ						○	
		タイワンドジョウ科	カムルチー			○				
	軟体類	タニシ科	ヒメタニシ						○	
	甲殻類	カワナ科	カワナ							○
		ヌマエビ科	ミナミヌマエビ					○	○	○
		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	○						○
		サワガニ科	サワガニ							○

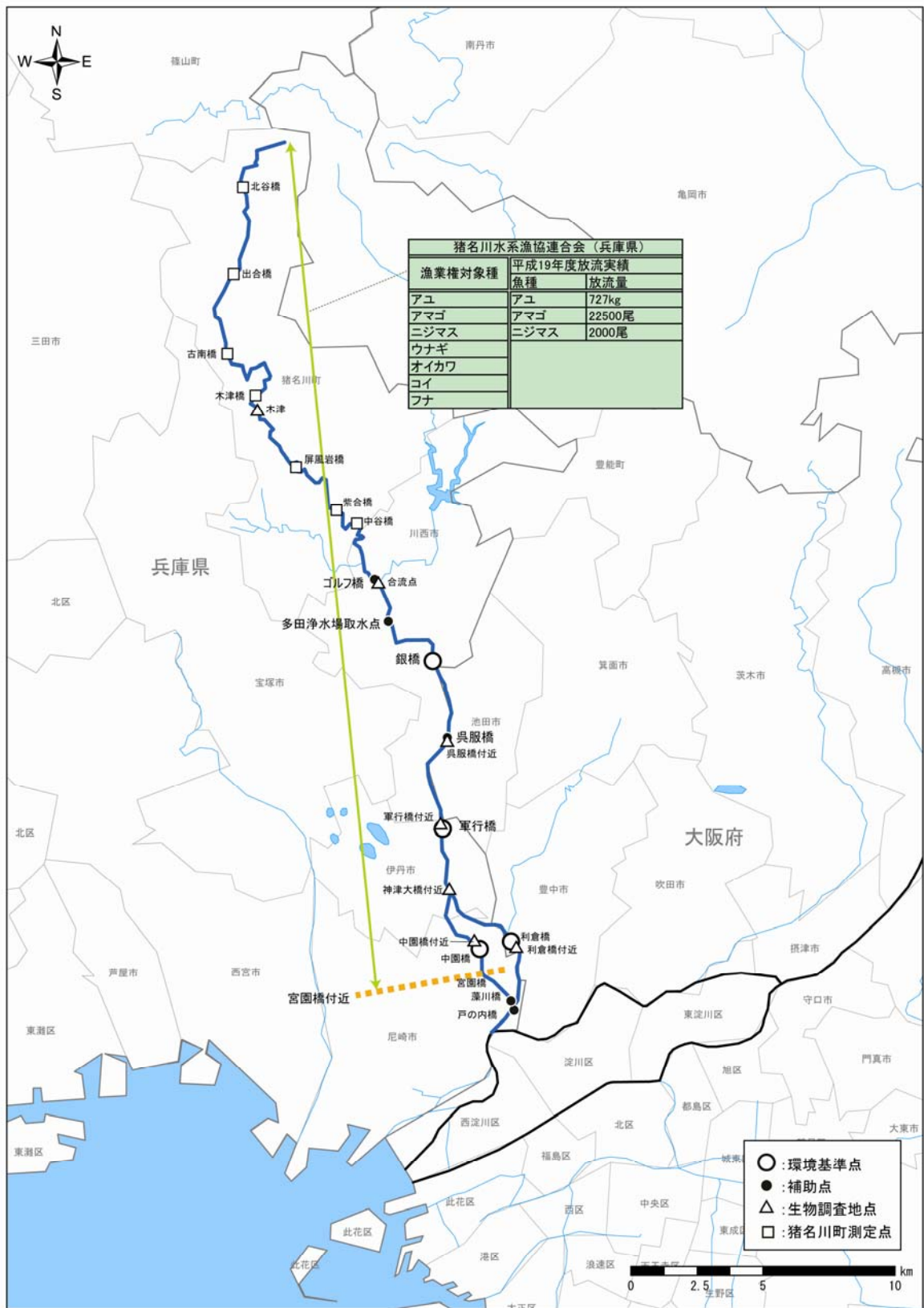


図9.14 漁業権設定状況・放流状況（猪名川）

2.10 木津川

(1) 水域の概要

淀川の支川である木津川はその源を三重、奈良の県境を南北に走る布引山脈に発し、笠置、加茂を経て山城盆地を貫通し、京都府・大阪市境付近で宇治川、桂川と共に淀川へと合流する流域面積1,596km²、幹川流路延長99kmの一級河川である。

(2) 水質の状況

1) 水域類型指定状況（図 10.1）

既存生活環境項目（BOD・COD・全窒素・全リン等の水生生物保全環境基準を除く項目）の水域類型指定状況は、木津川-1・木津川-2・木津川-3の3区域に分けられ、全域A類型に指定されている。

2) 水質汚濁状況（表 10.2、図 10.2～図 10.4）

BOD75%値の5年平均の比較図を見ると、木津川流入口（手原川・山田川）については1988～1992年度当時に比べて大幅に水質改善しており、他の地点については年度間の変化はほとんど無い。

3) 亜鉛の水質の状況（図 10.5～図 10.7）

全亜鉛はやや高めの地点があるが、概ね全般的に0.005mg/L程度となっている。

木津川本川における亜鉛排出事業所としては下水処理場・し尿処理場等、全体で13件存在しており、そのうち当該水域へ直接放流する事業所（PRTR対象事業所）は1件で、年度排出量が1000kg超・100kg超・10kg超・1kg超・1kg以下の順で見ると0件・1件・0件・0件・0件となっている（出典：平成18年度水質汚濁物質排出量総合調査データ、平成18年度PRTRデータ）

(3) 水温の状況（図 10.8～図 10.9）

公共用水域データの他に上流域の伊賀市の測定結果（平成18～19年度平均データ：年4回測定）を参考として示した。

これらデータを見ると大野木橋上流域では平均水温が概ね15℃以下であるが、下流へ向かうにしたがって高くなり、三川合流点前では平均水温が22℃程度となっている。

(4) 水域の構造等

1) 河床材料（図 10.10）

河床材料は、上流～名張川合流点までが砂・礫・石、名張川合流点～淀川合流点までは砂・礫が主体となっている。

2) 流量（図 10.11）

流量は笹瀬橋等3地点で測定されており、それぞれの低水流量は笹瀬橋で約7 m³/s、恭仁大橋で15m³/s、玉水橋で18 m³/s程度となっている。

3) 主な河川構造物（図 10.12）

堰やダム等については、上流から見ると大河原発電所取水井堰・相楽発電所取水井堰の2ヶ所が設置されているが、いずれにも魚道が設けられている。